

せ易い傾向に見受けられる。全体的統計から見て二十九年より三十年度が子供の食べ方は向上しており、一年を通じては四月は幼稚園生活不安定の様子が見受けられ、保育の最も山である二学期の食べ方は成績がよい。三学期は季節的關係で欠席等がある

為か一寸下る。いたわりの心遣いをする時期、最も活動的な時期と学校給食にも年間を通して保育の心が働かねばならないのは当然である。又栄養の目的のみでなく、子供の興味、よろこびの中に栄養を取り入れる保育法の精神は考えなければならぬ。

その一例に面白い珍現象も起った。十一月のけんちゃん汁の時一人の幼児がお休みしたので、放課後のっそり出園した。病気でないので淋しさに幼稚園にやって来て、自分で休園理由を白状してしまつた。原因は豚肉が大嫌いであるので、家庭でプリントを中心に話会つたことで、けんちゃん汁を知り休園してしまつた。以後その子には、けんちゃん汁のニックネームが通用となつた笑話もあつた。

こうした実情から幼稚園の給食は一週間

ぶつ通しですべきでもない。然し子供の栄養問題は真剣に考えなければならぬ。それには保護者の目を開くことが一番大事なことである。

お菓子の多い子供の栄養を考えて出発した誕生祝に大きな大きな助力者を得たことは何よりの幸せであつた。又保護者間の融和も作業を通して出来たし、単に園内で自分の子どものみを見るのでもなく皆んなの子供に慈しみのまなざしを投げる態度もほほましい姿である。

二カ年のささやかな歩みであり、今後の研究問題は沢山残されているが、お菓子の多い子供達が甘い世界から一歩ぬけ出て科学性をもつた愛情の誕生祝へ進んだことは何かうれしい気持ちに包まれるのである。

(長崎市立長崎幼稚園長)

× × ×

“幼児期の基礎体力に関する継続研究と、幼稚園に於ける体育指導の在り方について。”

三 丸 喜久子

(一) 研究の動機と種目。

幼稚園に於ける「健康」と云う教育内容を分析してみると消極的な養護の面と積極的な体育の面とに分けられるだろう。その中でも養護面はその内容の検討や指導法等も最近大分深く研究され実施されているようであるが積極的な体育面はどうであろうか。或程度リズム遊びと云う形で取あげられてはいるが果して之のみで幼児の身体的発達を助長するという体育的所期の目的を達し得るであろうか。子供の実態を眺めてみると非常に活動的であつてリズム遊びの様な比較的小さい動きの運動では満足でき

ないのが実情である。この溢れるような子供の要求を充してやる為には、幼稚園の幼稚園生活に於ける色々の遊びの場が即体育的にも取上げられ指導されねばならぬと考へている。こういう意図のもとには私は先づ幼児の体力の実態を測定しそれを拠り所として幼稚園に於ける幼児の体育的指導の在り方の研究をすすめてきた。体力測定法としては先に、元厚生省人口局の大崎サチエ氏現在熊大教育学部附属幼稚園園長）によつて考案された幼児体力検査法を用いた。(児童母性研究会ではこの方法を採用して測定を行い幼児体力の標準化を行っている) 当園に於ては昭和二十七年より同三十年までの四ヶ年間、本園の満五歳児男女延四二〇名、四歳児男女延二八〇を対象として本検査を実施し測定結果の検討を行った。

(二) 幼児の基礎体力の調査結果

とこの処理。

(一) 各年度の平均よりみる。

各年度の平均を眺めてみると二十九年

が比較的あらゆる種目に弱い傾向がみられる。又児童母性研究会のそれと比較してみると三十年度をのぞいては各年度とも懸垂以外の各種目に於て当園児が優位を示している。二十九年に於て劣位を示した原因としては(後述の遊具のもたらす影響の大ききより考へて) 次の理由が考察される。

即ち二十八年六月に熊本は大水害に見舞われその復旧に一ヶ年を要した。従つて二十八年六月以降二十九年四月までの約一ヶ年間幼児は園舎も広々とした遊び場も遊具も奮われた不自由な仮住居生活をよぎなくさせられた。つまり体育的指導の充分行われ得なかつたと云うことが二十九年度の測定結果にあらわれたものだと思はれる。次に本園に於ける測定結果を児童母性研究会の測定結果との相異については次の様な事が指摘できないだろうか。即ち、児童母性研究会の調査は約十一、二年前の第二次世界大戦の真只中であり食糧事情が悪く体力低下が懸念されていた時期であり而も精神的頭張りは相当に訓練された時代であつた為精神的頭張りを要する懸垂に於てのみ優位

をしめ他の種目に於ては劣つていたのではないかと思はれる。今日では食糧事情もよくなり、栄養の充実に伴つて全般的に体力の増加がみられ、但し精神的頭張りの面では多少訓練の不足があらわれているのではないかと考へられる。当園に於ては懸垂力の養成には充分心してきた為か三十年度の四歳児に於ては懸垂の目ざましい進歩が目立ってきている。

(2) 種目別偏差よりみる。

二十九年度の男女の比較に於て五歳男児の荷重走の個人差が大きい。三十年度では五歳女児の疾走、荷重走の開きが大きくなつてゐる。四・五歳児を比較してみると四歳男児は五歳男児より懸垂力の偏差が大である。四カ年を通じて眺めてみると投てき片脚跳が女児より男児の方が個人差が大きくなつてゐる。個人差の少ない種目に於ては一斉指導をやつても差つかえないと思はれるが偏差の大きい、即ち個人差の烈しい種目に於てはグループ別指導や個別指導が色々と考へられねばならぬと思ふ。次にTスコア評価表によつてのぞましい指導のあり

方を考察してみよう。

(3) Tスコア評価分布表によつてみる。

二十九年年度

幼児の実態	指導の具体的留意点
四才男児 疾走荷重走はよく懸垂は劣る 立市跳が劣る	○一斉指導を少しも差つかえない種目四才男児の投てき四才女児の疾走荷重走五才男児の投てき ○グルーブ別指導の必要な種目四才男児の片脚跳立市跳投てき ○上記の劣つている種目については全般的にその力を培うべく努めねばならぬ。
四才女児 荷重走はよく懸垂は劣る	
五才男児 疾走荷重走はよく懸垂は劣る	
五才女児 荷重走はよく懸垂立市跳片脚跳は劣る	

三十年年度

幼児の実態	指導の具体的留意点
四才男児 疾走はよいが他は全般的に劣る	○一斉指導をやつても差つかえない種目 四才男児 立市跳、片脚跳 四才女児 立市跳、疾走 五才男児 荷重走、片脚跳 五才女児 疾走、荷重、立市跳
四才女児 懸垂に中以下が多い	
五才男児 疾走荷重走はよいが投てきははやや劣る	○グルーブ別指導個人別指導の必要な種目 四才男児及び女児の荷重走、五才男児の片脚跳、五才女児の片脚跳
五才女児 立市跳はよく投てき懸垂は劣る	○向上記に於て劣つている種目は全般的に向上する様努めてゆく。

右の様に級単位により具体的な指導の方法が生れてくる。ではこれを実際指導の面に如何に織りこんでいくべきであらうか。

幼児期に於ては一斉指導といつても個人差のはげしい時期であるから或程度個人個人をよく考慮した一斉指導でなければならぬ。

(4) Tスコアによる個人の六種目輪郭線よりみる。

個人別に六種目の輪郭線をみてみると基礎体力の上位にあるものは比較的円形に近い輪郭線を示しており、下位にある者程凸凹のはげしい線を示す傾向がみられる。この原因がどこにあるかを探す為その一方法として自由遊びの調査をやつてみた。基礎体力の上位の者と下位の者とを各若干名を決めて一週間にわたり自由遊び時これらの幼児がどんな遊びを好んでしているかを記録していった。その結果次の様な事が発見された。即ち上位の者は大筋群を使用する活動的な遊具を使って活潑に遊んでいるのに対し、下位の者は常に静的な遊びのみ毎日を通してゐる事が明らかになつた。

自由遊びの在り方が如何に、基礎体力の育成に關係をもつかを痛感させられた。そこでその後の体育的指導の重点を当園では戸外に於ける自由遊びにおく事にして一人一人の幼児の体力の実態を考慮して個別指導にとめることにした。例えば懸垂のよわい子は吊環、吊縄、鉄棒、鉄製大鼓橋への遊びに誘導し、荷重走の弱い子は砂場遊びの砂運び水運びをやらせたり当番でミルクのコップ入れを二人で運搬させたりライン引を持ってくる当番をさせたり等小さい所まで気を配つた。その結果四歳児で凸凹の激しい輪郭線を示していたO児やK児も五歳になると各種目に於て円満な発達を示す良成績をみせTスコアの輪郭線に於ても円形に近い輪郭線を示す様になつた。

(5) 五歳児に於ける一カ年保育児と二カ年保育児の比較

両者の平均を各種目毎に比較してみると全般的に二カ年保育児の方が優れているが更に検定の結果、二十九年年度は懸垂に於て、三十年年度は懸垂、立市跳に於て一カ年保育児よりも二カ年保育児が優れている事

が明かになった。こういう点より指導の方法も一カ年組と二カ年組では同じ五歳児でも自然異って行われなければならない事になる。

(6) 四歳児と五歳児の比較。

四歳児と五歳児とは何れの種目に於ても(三十年の懸垂は別だが)五歳児の方が優れておりこの時期には随分発達するものとみられる。六種目の中の種目がよりよく発達するかを調べてみると、疾走、立巾跳、片脚跳の三種目が特に五歳児に於てよく発達すると云う結果が出た。

(7) 基礎体力と体格との関係。

三十年度の懸垂に於てはむしろ四歳児の方が優れている。という結果が出たので身長や体重と関係がありはしないかと考え、身長体重と各種目間の相関をみてみたが何れにも有意の差はみられず無関係であった。又六種目の基礎体力、相互間の関係をもみたが相関はなくこの種目は基礎体力測定の種類目として妥当である事もはっきりとすることが出来る。以上の調査から幼稚園に於ける体育指導のあり方を考えてみる。

(三) 幼児期の体育的指導の在り方について。

◎幼稚園の四歳児、五歳児の体力はその差がかなり見られ故に両者の体育的指導の面にも体力的差異を充分考慮して一律に取扱って無理をする危険をさげねばならぬ。

◎幼児に最も好ましい体育的遊戯は遊具を使った遊戯である。遊具を使った遊戯ではなく教師が絶えず効果的に且つ興味を与える様な使用法の研究をなし指導する必要がある。即ち、遊具をあらゆる面から有効に利用し使いこなせる様に導くのである。

その為には教師は各遊具のもたらす運動をよく認識すると共にこちらで欲する運動をもたらす様な遊具の使い方を考え而もそれを楽しむ遊びの中に織込んでゆかねばならない。例えば鉄製太鼓橋を山登りの模倣遊戯に劇化して取入れるとか鬼ごっここの障害物に取入れて遊ぶのも子供が喜んで参加する効果的な遊戯方といえよう。

◎リズム遊びの面から、幼児の身体的動き

はまだ巧緻性が未発達でその動きも円滑さにかいてる。基礎体力の増進の面からいっても動きの円滑さということが指導面に考慮されねばならない。子供は音楽に合せて自然に体を動かそうとする傾向がある。リズム遊びは幼児の身体の動きの円滑さを助長する為の最も適した運動といえよう。

◎疲労と休息。幼児は興味の強い遊戯には疲れを忘れて遊びふける傾向がある。この様な幼児の特質からいって幼児の遊びの指導はその中に充分に休息をとり入れて疲労がすぎない様に注意しなければならない。

◎幼児時代は身体発育の特質として大筋群を使った全身運動の時期である。体育的指導に於ても、基礎体力を養う事を主眼とし、末梢的な巧緻性の鍛錬をねらうのは従としなければならない。従って幼児体育の指導は楽しい雰囲気の中に於て全身運動をする様な種目が遊びの形で行われる事がのぞましい。あくまで楽しい遊びを通して体力の増進と円満な身体発達をはかることを意図するのであって無味乾燥なげしい鍛錬であってはならないと思う。

(1) 各年度年令別、種目別平均

参考までに各年度の平均、偏差、スコアによる基礎体力輪郭線の各表を付記した。

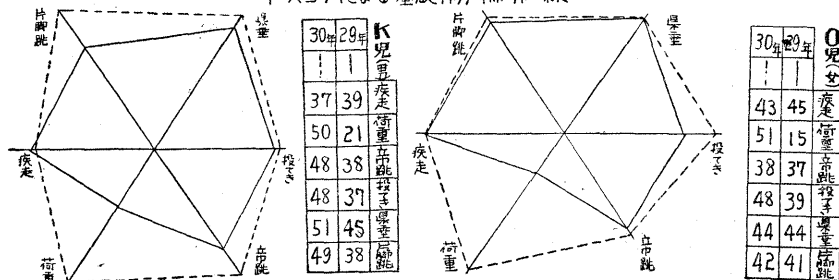
年度	年令	疾走(秒)		荷重疾走(秒)		立巾跳(種)		投てき(米)		懸垂(秒)		片足跳(米)	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
27	4	7.01	7.33	3.84	4.23	95.05	85.96	6.42	3.68	80.87	42.55	—	—
//	5	6.24	6.9	3.8	3.95	108.95	102.05	9.75	4.88	95.33	57.64	—	—
28	4	7.02	7.42	4.12	4.59	101.00	92.27	6.35	3.91	73.7	72.43	—	—
//	5	6.33	6.77	3.57	4.17	121.65	120.95	9.50	5.47	66.68	77.93	—	—
29	4	7.3	7.65	4.1	4.5	84.90	85.5	5.85	4.08	33.6	27.5	35.2	28.6
//	5	6.6	7.1	3.8	3.8	100.6	99.8	9.08	4.58	31.3	42.5	43.3	51.8
30	4	6.9	7.48	4.48	4.49	94.78	77.94	7.25	3.56	135.94	105.00	36.21	31.68
//	5	6.33	6.68	3.68	3.99	109.7	102.5	9.24	4.3	53.6	64.17	70.37	52.06
本園児 4年間の 平均	4	7.125	7.47	4.03	4.45	93.93	85.42	6.46	3.81	81.02	61.87	35.7	30.14
	5	6.38	6.86	3.71	3.98	110.2	106.32	9.39	4.81	61.15	60.56	56.83	51.93
児童母性 研究会平均	4	7.79	8.27	4.52	4.74	89.2	84.2	4.38	3.39	60.48	67.76	26.05	29.65
	5	6.59	7.50	3.85	4.16	105.1	97.9	7.21	4.40	80.6	73.6	49.55	46.75

(2) 各年度標準偏差

※検査人員は各年大体五才児が男女各約五十名程度四才男女各三十名程度で毎年六月に実施している。

年度	年令	疾走		荷重疾走		立巾跳		投てき		懸垂		片脚跳	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
27	4	0.5047	0.5189	0.4913	0.5229	11.59	11.14	2.188	2.643	33.24	27.27	—	—
//	5	0.1114	0.6008	0.3146	0.4030	4.128	13.24	2.177	1.234	43.75	31.29	—	—
28	4	0.0085	0.6898	0.415	0.6073	5.698	12.63	1.712	1.028	44.64	35.44	—	—
//	5	0.4485	0.3611	0.239	0.2551	12.67	10.20	2.172	1.031	27.77	29.57	—	—
29	4	0.64	0.73	0.44	0.71	13.2	13.3	1.89	1.20	14.5	18.3	21.8	13.3
//	5	0.61	0.46	0.64	0.33	11.30	12.25	2.42	0.96	21.02	22.69	18.6	16.6
30	4	0.43	0.60	0.42	0.58	11.6	11.3	2.15	0.82	91.49	61.64	21.9	16.22
//	5	0.35	0.55	0.40	0.81	14.2	11.6	2.50	1.52	35.0	49.8	35.5	15.9
30	二カ年組	0.2927	0.3991	0.4026	0.3972	10.95	11.41	2.822	1.450	10.37	51.66	27.21	15.62
//	一カ年組	0.4772	5.326	0.4512	0.1439	12.92	11.19	2.632	1.472	19.49	14.51	36.34	19.79

下スコアによる基礎体力輪郭線



(熊本大学附属幼稚園)